

Corporate Social Responsibility
CSR Report
 2016



CSR Report



コベルコシステム株式会社
 KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

<http://www.kobelcosys.co.jp/>

本 社: 〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル
 東京本社: 〒141-8688 東京都品川区北品川5丁目9番12号 北品川ONビル

発 行: コベルコシステム株式会社 CSR推進委員会
 (事務局 TEL. 078-261-6001 FAX. 078-261-7520)

本誌は、印刷・製本に関して以下のような配慮を行っています

印刷に関する配慮



印刷工程において有害廃液を出さない「水なし印刷」を採用しています。

用紙に関する配慮



森林管理協議会 (Forest Stewardship Council) から認証を受けた適切に管理された森林からの原料を含むFSC認証紙を使用しています。

インクに関する配慮



環境負荷の少ない植物油インクを使用しています。

コベルコシステム株式会社
 KOBELCO SYSTEMS CORPORATION

Top Message

神戸製鋼所のIT部門が中心となって1987年に設立したコベルコシステムは、その後、日本IBMの資本参加を経て、来年で30周年の節目を迎えます。当社は、神戸製鋼所の持つ製造業への強みと、日本IBMの持つ先進IT技術およびプロジェクト管理力というそれぞれの強みを融合し、神戸製鋼グループをはじめ多くのお客様にサービスを提供するIT企業へと成長してきました。

ITの世界では、これまでも日進月歩で技術が進展してきましたが、昨今ではこの進化はさらに加速しています。「モノのインターネット」といわれるIoT^{*1}やデータ・アナリティクス、製造業に大きなイノベーションをもたらすインダストリー4.0といった取り組みが大きな注目を集め、デジタル革命といわれるような事象が今まさに始まっています。IT技術を駆使した自動車の自動運転への取り組みの他、金融を変えるとされるFintech^{*2}の出現や、人では処理できない膨大な量の情報を学習し活用するコグニティブ・コンピューティング^{*3}の医療分野他での応用など、これまでにはなかった製品やサービスが業界の垣根を越えて出現しています。

*1 IoT: Internet of Things (モノのインターネット)

*2 Fintech: 金融 (Finance) と技術 (Technology) をかけあわせた造語 (金融におけるITの活用)

*3 コグニティブ・コンピューティング: 自然言語処理、仮説生成/評価、機械学習を組み合わせて、専門家に有用な情報を提供するシステム

お客様にとっては、新しいITテクノロジーをいかに有効利用できるかが従来にも増して経営に大きな影響を与えると同時に、我々IT企業にとっても、この新たな変革の流れに対応できるシステムやサービスをお客様にタイムリーに提供できる企業のみが勝ち残れる、そのような時代が来たと考えられます。

これらの変革に対応すべく、当社はさらなる高価値提供企業を目指し、昨年から中期経営計画『For High-Value 2017』を推進しています。具体的には、ハイブリッド環境でのクラウド統合基盤を実現する「コベルコシステム クラウドインテグレーションサービス」の提供開始や、IoTの活用を追求する専門チームの立ち上げを手始めに、システム開発の期間短縮とコストダウンを実現するアジャイル手法の活用、お客様のグローバル化への対応力強化などを進めています。また、当社のビジネスを支えるのは社員です。社員の人材育成に力を入れるとともに、すべての社員がイキイキとやり甲斐を持って働けるように労働環境の改善を図り、最大限の能力を発揮できるように取り組んでいます。

当社が継続して発展していくためには法令遵守はもちろんのことながら、ITを通じたお客様のビジネスへの貢献に始まり、六甲山を守る「森の世話人活動」のような地元での自然保護活動や地域イベントへの協賛、海外交流の一環としての海外留学生のインターンシップでの受け入れなどを通じ、お客様や地域を含むすべてのステークホルダーの皆様とともに歩んでいく会社でありたいと考えています。



代表取締役社長 川瀬 俊治



Contents

■CSRの取り組みについて

03 「卓越した経営」を目指して

05 コベルコシステムのCSRの取り組み

■特集

07 お客様に貢献するコベルコシステムの技術

■お客様とともに

09 お客様にご満足いただくために

10 CS意識のワンランクアップ

11 セキュリティなくしてビジネスなし

12 品質向上活動に終わりはない

13 新たな付加価値を創出するために

15 お客様事例のご紹介

- 加藤産業株式会社様
- 株式会社GSユアサ様

■ビジネスパートナー様とともに

17 公正なパートナーシップの維持

■社員とともに

19 人材育成の仕組み

21 社員と組織の絆を深めるために

■社会とともに

23 環境保護活動

24 社会貢献・地域貢献活動

26 会社プロフィール／沿革／編集後記

【報告対象期間】

2015年1月1日から12月31日の1年間の活動を中心に記載しています。一部につきましては、対象期間以前からの経緯やCSRレポート発行時直近の事項についても記載しています。

「卓越した経営」を目指して

経営ビジョン

私たちコベルコシステムは、お客様と「夢」を共有し、
確かな知識と卓越した技術によるITソリューション/サービスを通じて、
お客様の発展とチャレンジに貢献し続けます。

この経営ビジョンは、全社員が共有するビジョンとして、
2006年に若手・中堅社員代表30人が検討し策定しました。
お客様の発展とチャレンジに貢献するため、お客様の「こう
ありたい」という夢を共有し、実現し、お客様に喜んでいただ
くことが、私たちの夢であり、使命であると考えています。
これまで現場の経験で培ってきた優れた品質や高度な技術、
それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そしてお客様の

夢を実現させるために必要な「知恵」を駆使することで、お客
様の期待を超えるソリューション/サービスを提供し続けたい。
このような想いから、この経営ビジョンが生まれました。
社員自らが作った経営ビジョンを掲げ、常にお客様の立場に
立った行動、ITのプロフェッショナルとしてのお客様への貢献、
そしてお客様と夢を共有できる会社。コベルコシステムは、その
ような会社を目指しています。

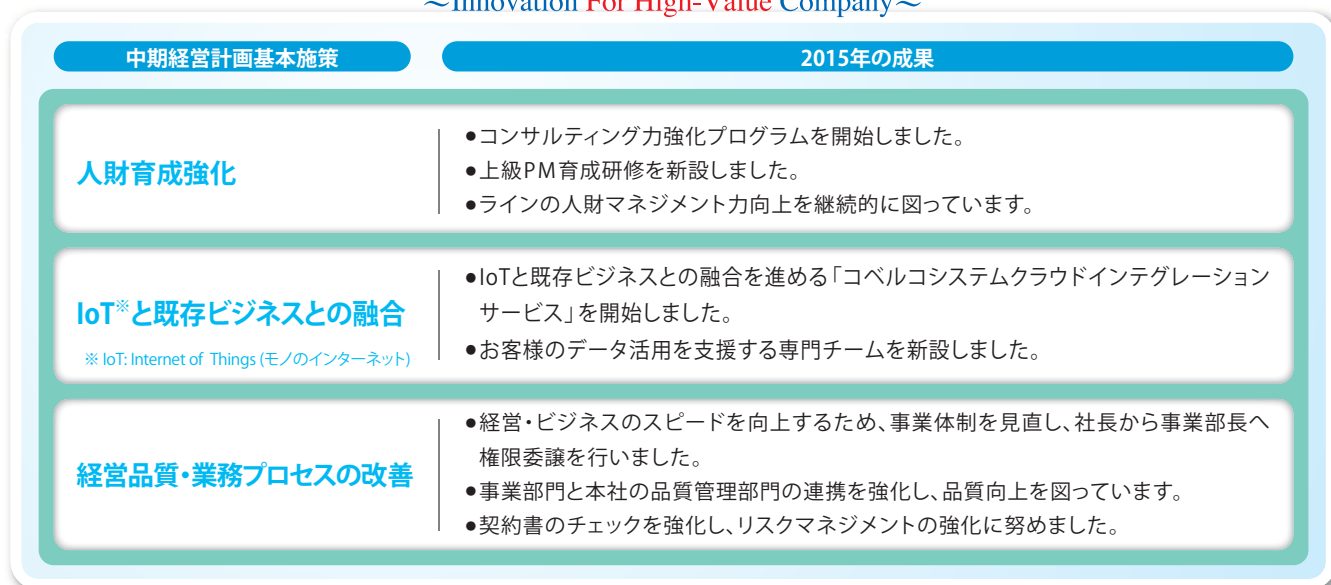
中期経営計画 (For High-Value 2017)

お客様から信頼され、選んでいただける会社であり続ける
ために、2015年に中期経営計画“For High-Value 2017”を
策定しました。
高価値化を実現するビジネスの創発、人材育成、社員の行動

変革を促す仕組みづくりに経営資源を集中投下し、「価値の創造
⇒高価値の提供⇒収益向上⇒さらなる価値の創造」のスパイ
ラルを造ることにより、お客様に高価値をご提供するHigh-Value
Companyを目指していきます。

For High-Value 2017

～Innovation For High-Value Company～



経営品質 4つの基本理念

コベルコシステムでは、常にお客様満足の追求を経営の中心
におき、組織プロセスを変革するという「日本経営品質賞」の
経営品質向上プログラムの基本的な考え方に沿って活動して
います。

経営品質向上プログラムは、「顧客本位」「独自能力」「社員
重視」「社会との調和」の4つの基本理念から構成されており、
これらをすべて満たすことが卓越した経営に共通した条件と
されています。

顧客本位 **お客様に信頼される真のパートナー**
私たちは、お客様ごとのニーズに応じて情報システム
を構築・提供していくサービス業であり、常にお客様
の価値を創造していくことが使命である。

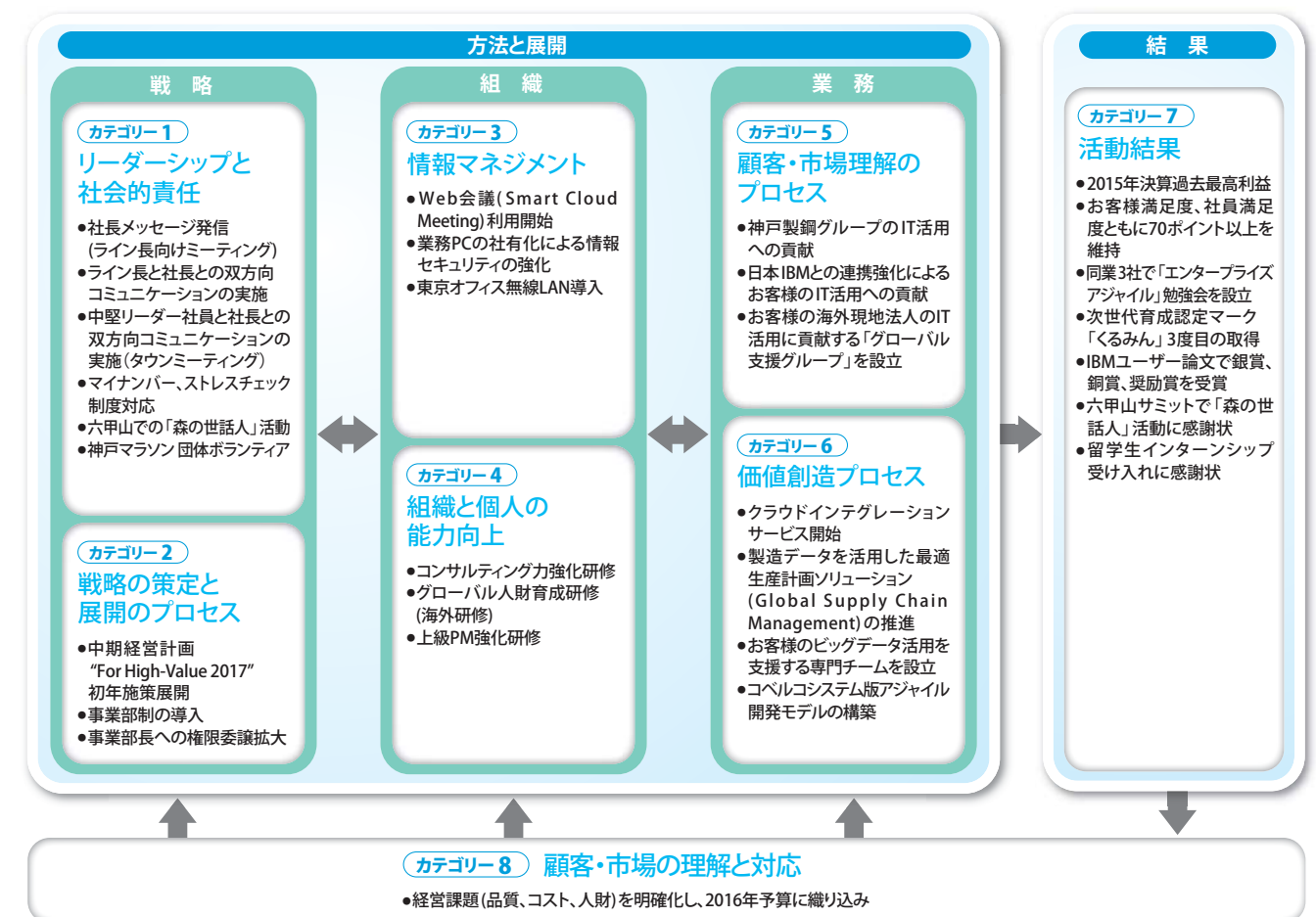
独自能力 **他社との違い**
現場の経験で培ってきた優れた品質・高度な技術、
それを支える確かな業務知識やIT専門知識、そして
お客様の夢を実現するための独創的な「知恵」が私
たちの財産である。

社員重視 **プロフェッショナル人材**
挑戦し、学び続ける自律した人材と、お互いを尊重す
る自由闊達な組織風土が、事業を営んでいくための
重要な資産である。

社会との調和 **企業倫理の遵守と健全な成長**
コンプライアンスを推進し、適切なガバナンスを自
律的に作り上げ、社会的な価値観で考え行動し、地
域貢献活動にも積極的に参画する企業文化が卓越
した企業の証である。

経営品質向上プログラムのフレームワークと2015年の活動結果

組織プロセスの変革は、下図の8つの視点=カテゴリーで実践し、評価しています。
各カテゴリーでの2015年の活動結果を下記フレームワークに示します。



コベルコシステムのCSRの取り組み

CSR推進活動方針・推進体制

- ① ステークホルダーに対する「大切に想う気持ち」に根ざして、CSR活動を推進する
- ② コベルコシステムならではのCSR活動を展開する
- ③ さまざまな活動への参画を通じて、CSRへの理解を社内に広く浸透させる

コベルコシステムでは、CSRを「経営を支える大切な取り組み」と位置付けており、経営ビジョンを実現するための活動として推進しています。

設立20周年にあたる2007年、社会的責任を果たすためのさまざまな活動を整理・体系化、2009年にはCSR推進委員会を設立し、2010年に「CSR推進活動方針」を策定しました。これまで、コンプライアンスの強化と情報セキュリティの強化、リスクマネジメント、適正取引の推進、社会貢献活動の充実を目指して活動してきました。

CSR推進委員会は経営会議の諮問機関として、社長をオー

ナー、CSR担当役員を委員長とし、各部門から選出されたCSR推進委員で構成されています。この委員会が全社のCSR推進活動方針に基づいた重点活動領域の設定、個別テーマのワーキンググループによる活動、社内外へのCSR情報の開示などのコミュニケーション活動を担っています。

2012年4月には、適正取引に関する活動をしていた「適正取引推進委員会」をCSR推進委員会に「適正取引部会」として統合し、コンプライアンス強化の一環として推進する体制に再編しました。

また、これらの活動を幅広くステークホルダーの皆様にご理解いただくために、2010年からCSRレポートを発行しています。

ステークホルダーとマテリアリティ

お客様

ITソリューション/サービスを通じて
お客様の発展とチャレンジに貢献し続ける

社員

社員の成長と働き甲斐が
コベルコシステムの企業発展の原動力である
3T(楽しい、短時間、達成感)職場の実現

株主

日本IBM、神戸製鋼所のグループの一員として
企業活動を推進する



ビジネスパートナー様

ビジネスパートナー様と
健全でWin-Winの関係を築く

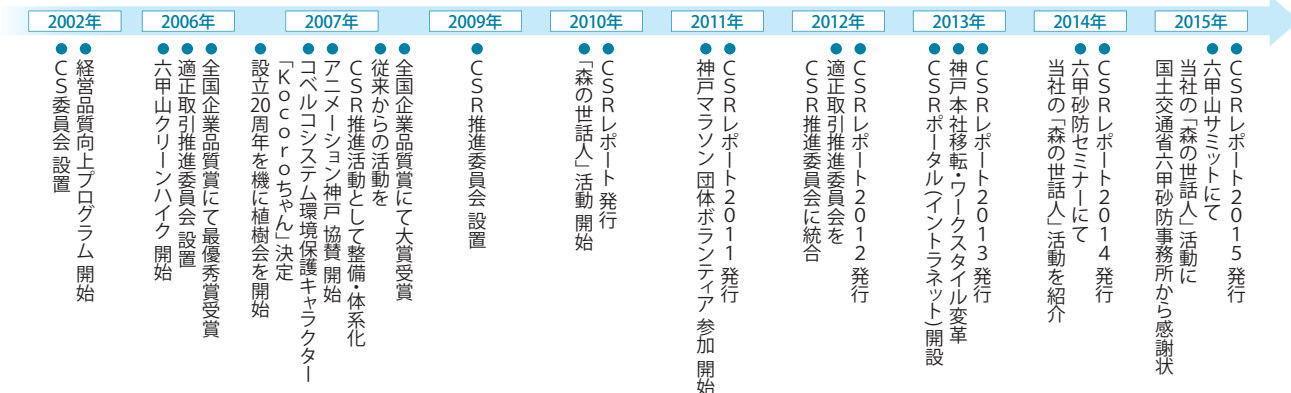
行政

法令等を正しく理解・遵守し、
行政との良好な関係を保つ

地域社会

当社の得意とする知識や保有する経営資源に即して、
企業市民として社会への貢献を確実に実行する

CSR推進活動の軌跡



ガバナンス推進体制

株主総会を起点とし、取締役会、および経営会議を基盤とする経営管理体制によって運営しています。取締役および執行役員は任期は1年として各年度の経営責任を明確にし、経営環境の変化にも迅速に対応できる体制としています。

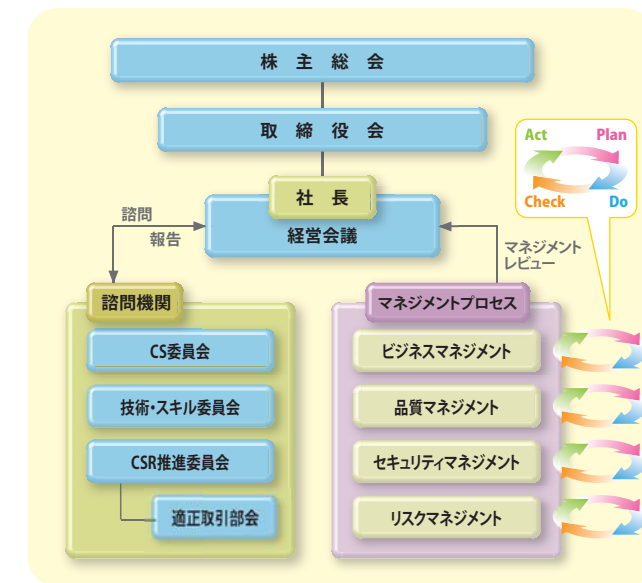
取締役会は、3ヶ月に1回の定期開催、および必要に応じて随時開催し、業務執行の基本となる意思決定や監督を行っています。

経営会議は、経営戦略や重要施策の策定など、経営上の重要事項を審議・決定します。

コベルコシステムは、米国に本社を置くIBMグループの一員であり、SEC(米国証券取引委員会)の会計基準および米国SOX法に準拠したIBMの内部統制の配下にある会社です。

最高経営責任者(社長)および最高財務責任者(管理部長)は、四半期単位で財務諸表が正確であること、内部統制が健全に機能していることをステークホルダーに宣誓しています。

業務の有効性や効率性、財務諸表の健全性や信頼性、法令遵守などコベルコシステムの内部統制環境が機能していることを保証するためにSOXテストやモニタリングを実施しています。



コンプライアンス推進活動

お客様に信頼される真のパートナーになるために、法令などを遵守するのはもちろん、企業倫理に則した行動を取ることが必須です。コベルコシステムでは、企業倫理規程を制定し、社員一人ひとりが行動する際のガイドとしています。

また、企業活動を取り巻く、多様化、複雑化、かつ高度化するリスクに対して、適切に対応することも求められます。このため、

コベルコシステムでは、コンプライアンス推進活動の一環としてリスクマネジメント活動を継続しています。

当社のリスクマネジメントは、リスク管理チェックリストを用いた自主点検を中心に取り組んでいます。自主点検結果に基づき、残留リスクへの改善策を策定し実施するPDCAサイクルを回しています。

2015年度 リスクマネジメント推進活動

2015年2Q～2016年1Q

Act 2015年4Q～
是正・改善の実施

Check 2015年4Q
自主点検結果の評価



Plan 2015年2Q

- リスクマネジメント整備・浸透**
- 前年の自主点検結果を反映したリスク管理チェックリストの改訂
 - 本社部門用(規程・ガイド制定側)
 - 現業部門用(規程・ガイド遵守側)
 - 新リスク管理チェックリストのための自主点検実施ガイド

Do 2015年3Q

- 新リスク管理チェックリストによる自主点検の実施

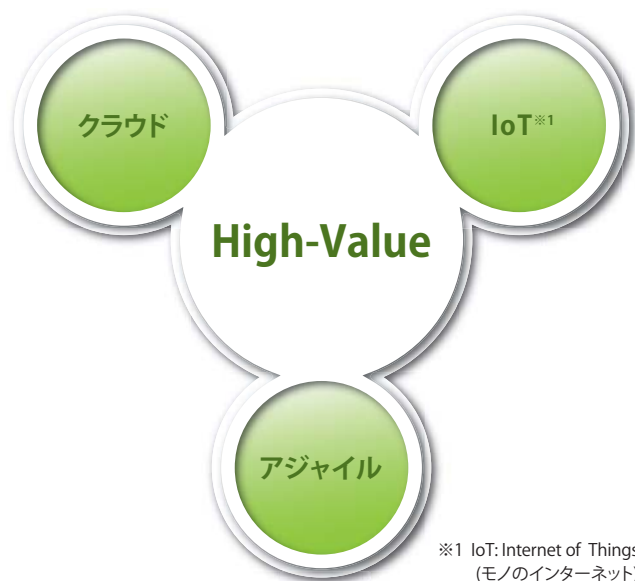
特集 お客様に貢献するコベルコシステムの技術



High-Valueエンタープライズ・ソリューション

コベルコシステムでは、お客様のビジネス環境の変化に対して俊敏に対応できる技術や、リアルタイムに連携、統合されたITプラットフォームの提供により、ビッグデータに基づいた、戦略的で競争力のあるエンタープライズ・ソリューションの創出を目指しています。

また、お客様が必要とされるITリソースを柔軟に提供することによって、グローバル化への推進やご期待にお応えし、お客様にとって High-Valueな企業システムの提供を目指して貢献します。



※1 IoT: Internet of Things (モノのインターネット)

ビジネス変化への俊敏な対応力 (アジャイル開発への取り組み)

コベルコシステムでは、ビジネスの変化へのすばやい対応を求めお客様にアジャイル開発※2を適用できるよう、アジャイル開発のプロセスやプラクティスを体系化・標準化したガイドを作成しています。さらに、社員がアジャイル開発の進め方を理解するための研修やワークショップを実施するなど、アジャイル開発の手法を習得し、実践力を向上する取り組みを実施しています。

事例として、神戸製鋼所長府製造所において、情報系システムの開発や保守改善の領域にアジャイル開発を適用しており、無駄を省くことでお客様の要望にスピーディに対応できるシ

ステム開発や保守を実現しています。また、この取り組みをまとめた論文「保守運用フェーズにおけるアジャイル開発の適用について」が、第53回IBMユーザー論文において銀賞を受賞しています。

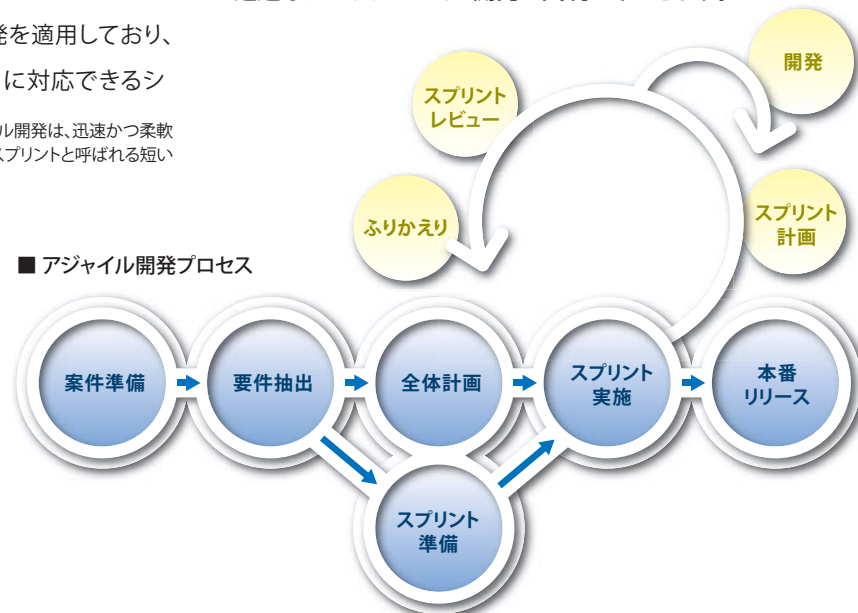
今後も、アジャイル開発の設計・開発を効率化するツールや開発環境を積極活用することで、生産性と品質を確保しながら迅速なアプリケーション開発を実現していきます。

※2 アジャイルとは、『すばやい』『俊敏な』という意味。アジャイル開発は、迅速かつ柔軟に、変化に対応することができるソフトウェア開発の手法。スプリントと呼ばれる短い期間での繰り返し開発をすることで、リスクを最小化する。



ブロック玩具を使ったアジャイル開発ワークショップ

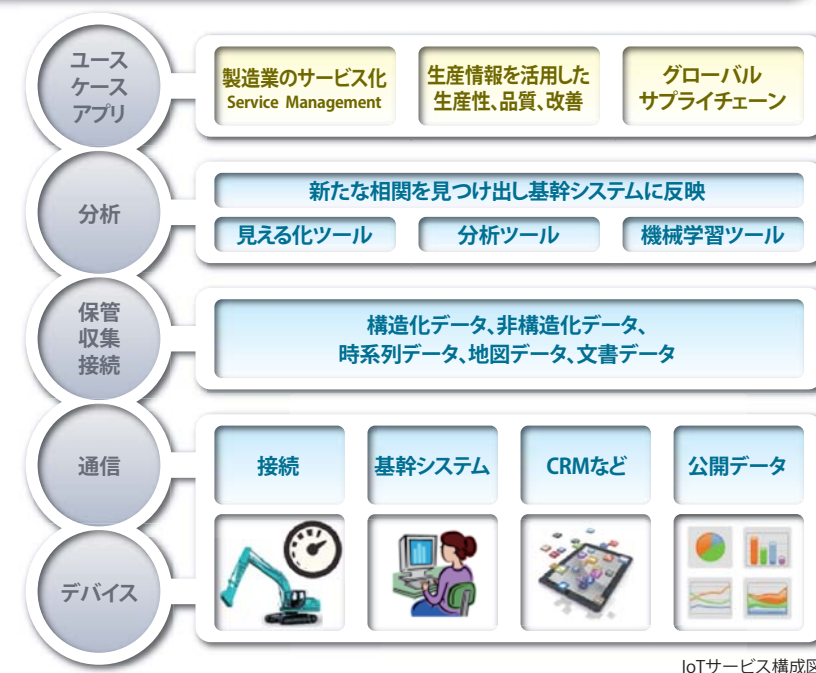
■ アジャイル開発プロセス



製造業のサービス化推進および工場最適化のために (IoTサービスの提供)

IoTを活用し、新しいアイデアやサービスを実現するためには、現在の課題に対して、仮説を設定しデータで裏付けながら解決策を検証していくことが必要です。さらに、得られた解決策をビジネスプロセスに取り入れていかなければなりません。

コベルコシステムでは、製造業のお客様向けに、リアルタイムなデータ収集、データの可視化、分析の迅速化などを、安価に導入するためのIoTサービスを提供予定です。サービス改善、変革のための既存の基幹システムとの融合まで、一気通貫で提供していきます。



IoTサービス構成図

IT統合プラットフォームの提供 (クラウドインテグレーションサービス)

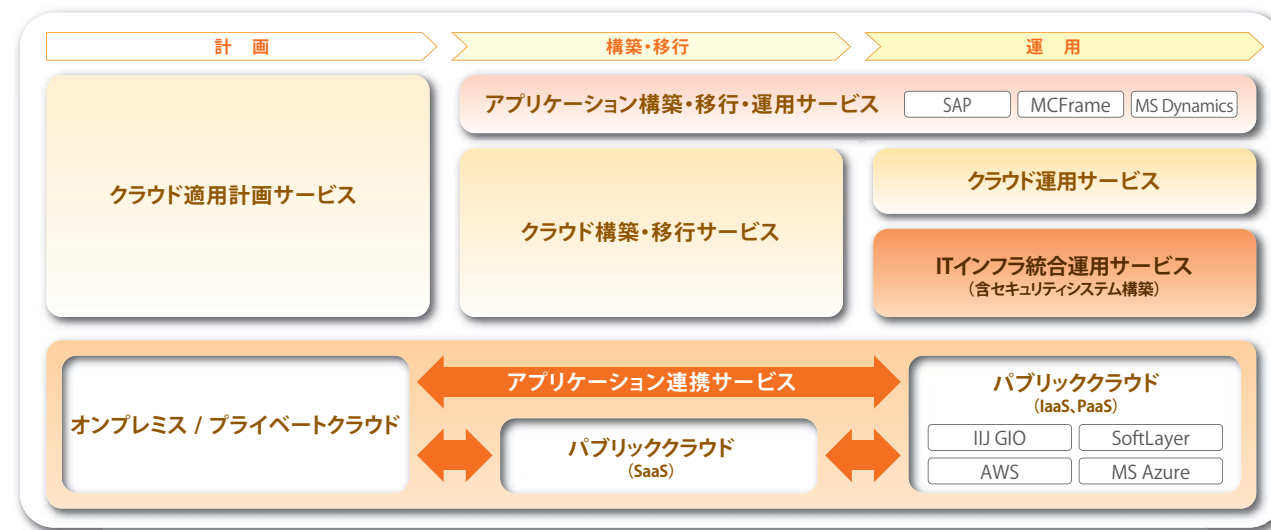
コベルコシステムでは、2015年6月から『クラウドインテグレーションサービス』の提供を開始しました。

「欲しいとき」に「欲しいサービス」を「欲しいだけ」利用できる、クラウドの俊敏性と柔軟性を活かしたIT基盤を実現、ご提供するサービスです。

IT基盤をサービスとして利用するので、システムの計画から

開発、サービス開始までのリードタイムが劇的に短縮することももちろん、柔軟なリソース配分によるコスト適正化やインフラの運用保守業務からの解放も期待できます。

クラウドベンダーごとに異なるサービスの仕様や制約を考慮しつつ、多様な選択肢の中から、お客様のビジネスに貢献するIT基盤の最適解を組み合わせたシステムをご提供、実現します。



お客様にご満足いただくために

コベルコシステムでは、お客様満足度向上活動を「経営を支える大切な取り組み」としてしています。お客様の声に耳を傾け、お客様のご期待を超え、お客様に感動していただける会社づくりに取り組んでいます。

CSサイクル

コベルコシステムでは、お客様のご期待にお応えるために「CSサイクル」というプロセスで活動しています。お客様満足度調査などでお客様からいただいた貴重なご意見を真摯に受け止め、お客様と課題や改善策を共有し、業務改善活動として取り組んでいます。また、改善結果をお客様とともに確認することで次の活動へとつなげています。



- **お客様満足度調査**
お客様からの評価(期待、不満など)
- **フォロー・SET**
お客様の声に応えるためにお客様と課題を共有
- **業務改善活動**
お客様と共有した課題を中心に改善を実施
- **MET**
お客様と共有した課題の達成状況をお客様とともに確認

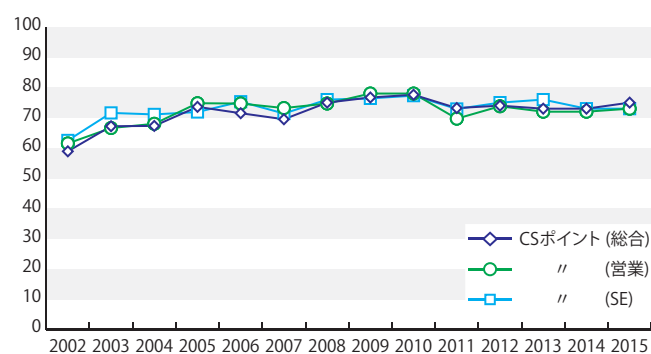
お客様満足度調査

コベルコシステムでは、お客様からのご意見やご評価を伺うため、3種類の満足度調査を行っています。数字での評価とともに、「真っ先に改善すべき点」など、忌憚のないご意見をいただいています。

いただいたご意見やご指摘は、全社あるいは部門で改善策を検討し、実施しています。お客様と課題を共有し解決することで、

- お客様満足度調査** 営業・SEの活動、サービスや成果物などコベルコシステムの活動全般の調査
- プロジェクト満足度調査** 構築・開発のプロジェクトごとに調査
- サービス満足度調査** 運用保守サービスごとに調査

お客様システムの安定稼働、サービス品質の向上へとつなげています。お客様のご期待を超えた対応をこころがけ、真のパートナーとしての絆を築いて、お客様とともに成長していきます。



業務改善活動

2015年は全員参加を目指して『CS改善活動』から『業務改善活動』という名称に変更しました。

「あらゆる改善活動は最終的にお客様への貢献につながる」との合言葉のもと、活動の幅を広げ、活性化を行いました。その結果、過去最多の76チーム、539人が参加し、お客様に満足していただけるサービスの提供に取り組まれました。

また、各拠点をTV会議システムで接続し、業務改善活動発表会を行い、成功事例を共有しています。この活動を通して、問題



の発見能力や解決能力の向上、お客様に貢献したいとの思いがさらに高まっています。

2015年業務改善活動 最優秀賞チームの声
活動テーマ 統合メールシステム運用品質向上活動
チーム名 EXちえんじ



チームリーダー 小笠原 弘之さん
 「お客様にシームレスなサービスを提供したい」。そんな思いで、アプリ側とインフラ側の横連携という大きな課題に挑戦しました。業務内容も風土も異なる両組織の壁を越えて、意識や足並みを揃えることは予想以上に大変でしたが、大きな価値を生みだせたと思います。

CS意識のワンランクアップ

CS委員会

お客様満足度向上の観点から、全社レベルの施策を検討し、迅速に対応する仕組みとして、全社横断的な組織であるCS委員会を設置しています。お客様の真の声に耳を傾け、先進的なITの知識とお客様業務への深い理解を融合させ、お客様とともに未来を作り、お客様に満足していただけるサービスをお届け

できるように活動しています。

CS委員会は経営会議の諮問機関として、お客様の満足度をベースとした会社の経営方針やさまざまな施策についても提言を行っています。

CSスローガン

毎年、社員からCSスローガンを募集し、その中から全社員の投票により翌年のCSスローガンを決めていきます。

今年は、『ともに見よう! お客様の目線のその先を』が選ばれました。このCSスローガンをポスターにして執務フロア、会議室など、全社のあらゆる場所に掲示し、社員のCS意識の向上を喚起しています。



2016年 CSスローガン作者の声



システム事業部 SO本部 松田 有加さん

このスローガンができたきっかけは、「我々の価値について考える」という社内研修です。その中で自分たちに何が出来るのかを考えたとき、「お客様と一緒に考える」という視点に立てば、いろいろなことができると気づき、このスローガンを作りました。

CS集中討議会

「腑に落ちたCS意識の浸透」を目的に、中堅社員を対象として2010年から毎年実施しています。お客様視点での思考の大切さ、それに向けた行動の変革などについて真剣な議論が行われています。次世代を担う社員の心豊かな感性を育む場としても、重要な役割を果たしています。



CS通信(メールマガジン)

社員一人ひとりがお客様の気持ちを理解することの重要性を再認識し、常にお客様の立場に立った行動ができるように、毎月一回『CS通信(メールマガジン)』を全社員に配信しています。

先輩社員の体験談や書籍などで感動したコラムを中心に、街で見かけたCS、CS川柳など、親しみやすい内容で構成され、社員が楽しみながらCS意識を向上しています。



CS研修

社員のCS意識のワンランクアップを目指して、毎年、全社員向けのCS研修をe-ラーニング形式で行っています。毎回、受講率100%を達成し、社員からもCS意識の向上に大変有効であるとの声が上がっています。また、新入社員研修や、社内の各部署でも独自にCS研修が行われています。



セキュリティなくしてビジネスなし

品質向上活動に終わりは無い

情報セキュリティマネジメントシステム KSMS: KOBELCO SYSTEMS information Security Management System

情報セキュリティのリスクは、技術進歩・製品進化・事業内容により、常に変化し続けています。その変化に追従し、セキュリティ対策を取っていくことは、企業存続に必要不可欠となっています。コベルコシステムでは、これらの取り組みをKSMSとして定め、経営幹部によるマネジメントレビューのもと、情報セキュリティポリシーの設定&見直し、および「物理環境（事務所、ロッカー

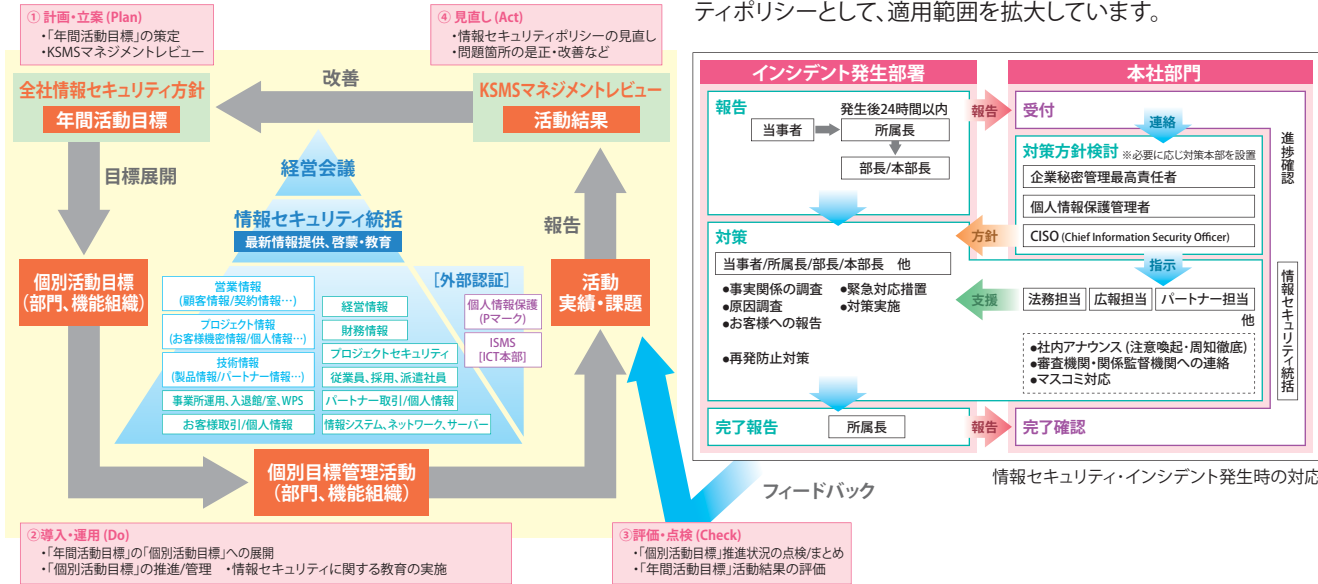
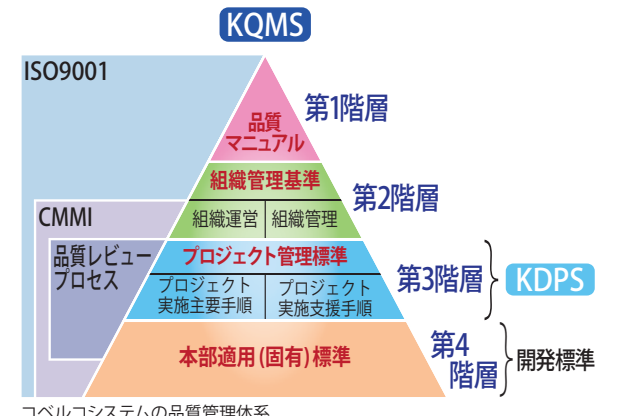
など）」「システム環境」「人的（社員・ビジネスパートナー様など）」「社会的責任」「ビジネス」の各視点でセキュリティ活動のPDCAサイクルを回し、最適なセキュリティ水準を維持するようにしています。また、突発的なセキュリティ・インシデントには、全社対応体制を整備して運用するとともに、適宜セキュリティ活動にフィードバックしています。

2015年度からは、関連会社を含めたグループの情報セキュリティポリシーとして、適用範囲を拡大しています。

コベルコシステムでは、システム開発・構築における品質向上を図るため、1999年に認証を取得したISO9001をベースにCMMI（統合能力成熟度モデル: Capability and Maturity Model Integration）の考え方を取り入れた品質マネジメントシステム「KQMS」を構築しています。さらに、この下に「KDPS」「品質レビュープロセス」と呼ぶコベルコシステム独自の仕組みを構築しています。

2015年 全社品質方針

お客様へのHigh-Valueサービスの提供を実現するために、デリバリー品質向上の仕組みを継続的改善によりさらに強化し高いレベルでの品質の均一化を図る

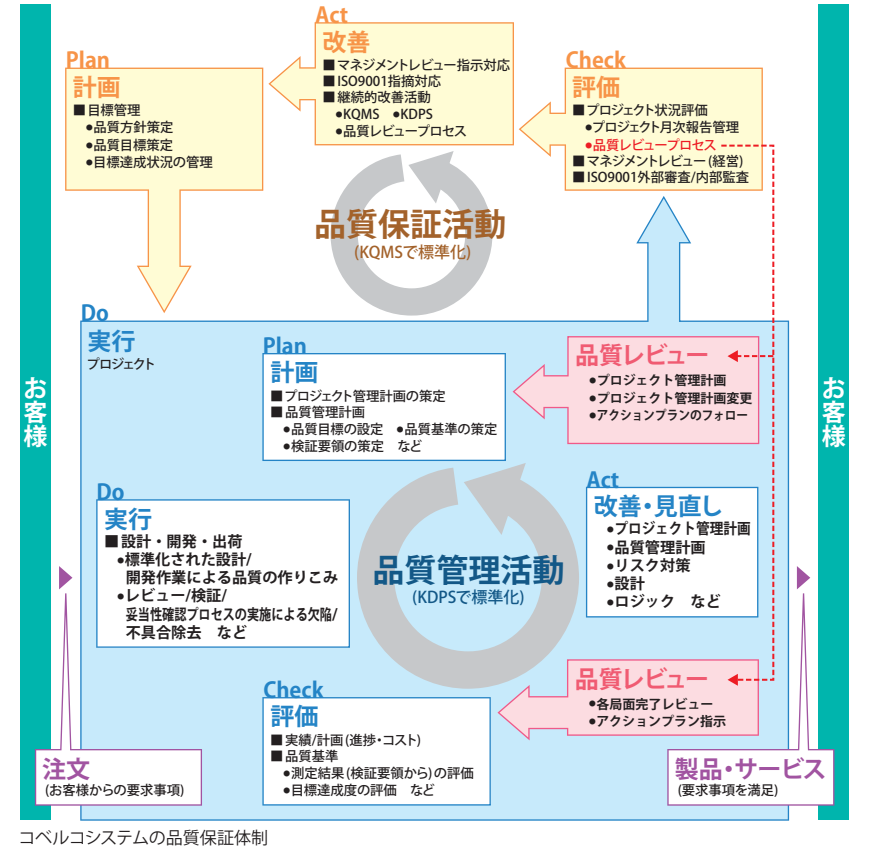


品質マネジメントシステム KQMS: KOBELCO SYSTEMS Quality Management System

全社で共通のQCD管理サイクルを制定し、それぞれのプロジェクト状況をKQMSサポートシステムで一元管理しています。これによりQCDの管理レベルの平準化とプロジェクト情報の見える化を実現し、さらに品質方針・品質目標管理によるマネジメントレビューを通じて継続的に改善活動を行うことにより、組織としてのQCD管理レベルの向上を図っています。

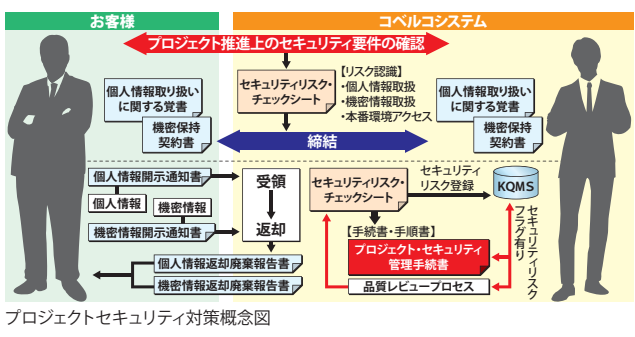
開発プロセス標準 KDPS: KOBELCO SYSTEMS Development Process Standards

KDPSは、システム開発・構築などのベストプラクティスとしてのプロセス改善モデルであるCMMIの考え方を取り入れ、コベルコシステム独自のプロジェクト管理手順をシステム開発・構築プロセスの標準として組み立てたものです。プロジェクト計画や検証活動の手順・様式を充実させており、管理作業効率向上のための雛形や管理ツールも準備しています。



プロジェクトセキュリティプロセス PSP: Project Security Process

コベルコシステムでは、プロジェクトのQCD管理に加え、2009年からPSPによるセキュリティ管理を推進、強化してきました。PSPとは、プロジェクトごとにセキュリティリスク（個人情報の取り扱い、機密情報の取り扱い、本番環境アクセス）を把握したうえで、お客様とリスクを共有し、対応策を実施していくセキュリティ管理手法です。この手法の運用定着化をまとめた論文（2014年）と情報漏えいリスク発見アプローチをまとめた論文（2015年）は、IBMユーザー論文で銀賞と銅賞を受賞しました。お客様からお預かりしている情報資産を守ること、そしてその情報資産へのアクセスを管理することはコベルコシステムの使命と考え、プロジェクトのセキュリティを確保しています。



ISO27001 (ISMS) の認証 (2014年更新、2016年1月定期審査受審)

「ハウジングサービス」「インフラ運用サービス」「ソリューションサービス」について、適用規格 [ISO27001:2013] の定期審査を2016年1月に受審し、改善指摘事項（重大な不備）は発見されず、認証は継続されました。お客様からお預かりする大切な情報資産を守るため、技術的なセキュリティ対策と組織全体のマネジメントの両面から、高度なセキュリティ管理下でのサービスを提供してきました。このことが、本制度運営を担う一般財団法人日本規格協会から、10年以上にわたりISMSの登録を継続し、その維持・改善に努めたことを評価され、2014年に「情報セキュリティマネジメントシステム永年登録表彰」を受けました。

個人情報保護の推進

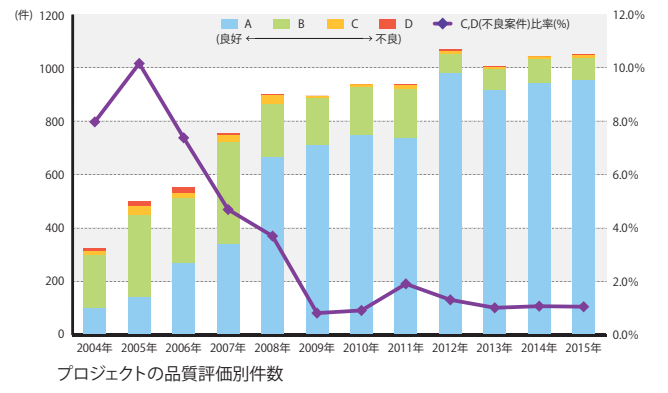
コベルコシステムでは、プライバシーマーク制度設立当初の2000年にいち早く認定を取得し、多年にわたり個人情報保護レベルの向上を積極的に推進してきました。今後も個人情報を適切に保護していくために、2015年はさらなる内部統制の強化を行い、個人情報保護マネジメントシステムの厳密さを向上させました。

品質レビュープロセス

個々のシステム開発・構築が、お客様のご要望を満たし、高品質かつ所定のコスト内で確実に実現できるようにするため、コベルコシステム独自の品質レビュープロセスを実施しています。このレビュープロセスは、お客様への提案段階からサービス実施期間全体を対象とし、サービスの成功を脅かすリスクの特定・定量化・対応策策定を行うため、特別に訓練されたレビューアによって実施しています。

ISO9001の認証 (2014年更新、2015年11月定期審査受審)

適用規格 [ISO9001:2008] の定期審査を2015年11月に受審し、改善指摘事項（重大な不備）は発見されず、認証は継続されました。



新たな付加価値を創出するために

技術・スキル委員会

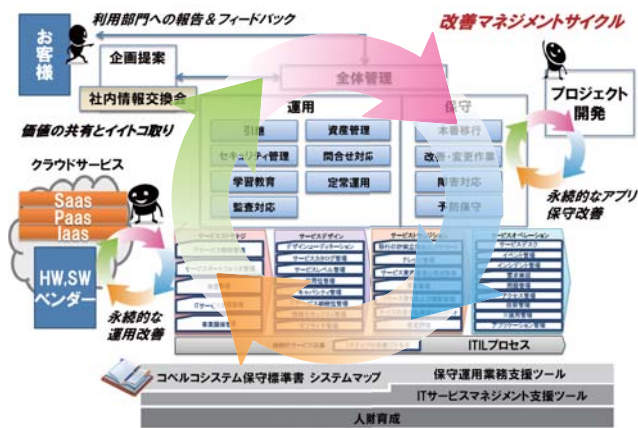
技術・スキル委員会は経営会議の諮問機関として、取締役を委員長とし、各本部の開発部長・本部長(約30人)を委員として構成しています。

これまでの活動には、コベルコシステムの品質体系(KQMS)や開発プロセス標準(KDPS)の審議、ソリューションテンプレートのアセット化推進、先進技術の推進、PM力強化などの答申を行い、当社の技術・スキルの礎を築いてきました。

2015年の主な活動

- ① 保守運用サービス高度化
- ② 全社技術戦略展開
- ③ KTO2015の構築
- ④ テンプレート開発、活用
- ⑤ 先進技術カンファレンス
- ⑥ 秘伝のタレリニューアル

現在、お客様への保守サービスの高度化、お客様高価値創出を目指して、ITサービスの効率化、企画・提案力強化に対する審議を行い、新たな付加価値創出をもって、お客様とともに成長への変革に挑んでいます。



保守・運用改善マネジメントサイクル

KTO(KOBELCO SYSTEMS Technology Outlook)

コベルコシステムでは、発展的な視点から当社が活用すべき技術・スキルの今後を鳥瞰できる「KTO」を、2006年から作成しています。グローバルレベルの先進技術動向や国内のIT業界動向と、その成熟度をとらえ、お客様に貢献できるよう当事業

メニューに特化した技術や先進技術への取り組みの方向性を示します。お客様が直面されている課題の解決や次期IT環境構築のロードマップ作成をお客様とともに進める一助として活用いただけます。

■ 業界動向

「いち早くキャッチアップすべき、新しい技術は何か」「競争力を保つのに必要な技術は何か」ITを利用する多くの人々がどのような技術に関心があり、またその成熟の度合いを知ることは重要です。全体を網羅し、鳥瞰することにより、その年の技術トレンドを理解することができます。

■ 当社の先進技術フォーカス分野

先進技術フォーカス分野は、コベルコシステムの先進技術への取り組みの方向性を示し、今後の事業メニューを支える技術をリードします。毎年先進技術フォーカステーマを設定し、先進技術への取り組みを推進しています。

先進技術フォーカステーマ

クラウドを基盤としたデリバリー技術の刷新

- デリバリー技術の刷新
- システム管理の考え方の刷新
- オープンPaaSへの期待

オープン開発

- 4つのオープン
- 適応型開発の強化
- オープン開発プラクティス

データによる価値訴求

- データがデータを生み出す好循環
- オープンデータ、非構造化データの活用
- データ仮想化環境の実現

■ 先進技術動向

IT業界の大手ベンダーは、自ら業界のイノベーションをリードしていますが、新技術への期待は過剰な宣伝により一時的に高まります。技術の黎明期から安定期にいたるまでの、成熟度の変化をとらえて技術の採用時期を考慮することが必要です。技術動向では、中長期の技術を鳥瞰することができます。

■ 当社の事業メニューに特化した技術

コベルコシステムは、お客様の課題を解決し、お客様価値創出に貢献するために、事業メニューに特化した技術を追求しています。お客様とのパートナーシップの強化を通して、お客様の競争力向上に貢献します。



IBMユーザー研究会 第53回IBMユーザー論文 入賞・入選

全国IBMユーザー研究会連合会では、毎年、ユーザーから論文を募集しています。2015年の「第53回IBMユーザー論文」では、論文総数123編のうち、優秀論文(金賞・銀賞)が15編選ばれました。

コベルコシステムからは、優秀論文(銀賞)として2編が入賞しました。さらに、銅賞1編、奨励賞2編も選ばれ、あわせて5編が入賞・入選しました。

なお、この賞は、事例型論文と提言型論文に分かれ、ともに貢献度、先進性、実証性などが評価基準になっています。

これまででも、コベルコシステムは最優秀賞をはじめ、過去10年で30論文が入賞・入選しており、高い評価を得ています。

第53回IBMユーザー論文 入賞・入選論文

- 銀賞
 - [事例型] 保守運用フェーズにおけるアジャイル開発の適用について
 - [提言型] アプリケーションのデプロイへのDocker導入の提言
- 銅賞
 - [事例型] プロジェクトに潜む情報漏えいリスク発見アプローチ
- 奨励賞
 - [事例型] システム投資を効果的に行うためのシステムマップの構築
 - [事例型] コベルコビジネスサポートでの業務改革の取り組み

IBMユーザー論文 銀賞受賞者の声

私たちの部署では日々新しい技術を調査し、システム開発・運用に取り入れられそうなものを検証しています。

近年ではDockerというツールが注目を集めています。Dockerを使うとアプリケーションをミドルウェアと一緒にパッケージングして、さまざまなマシンで簡単に動かすことができます。

この論文では、Dockerをアプリケーションのデプロイ(配備)作業に取り入れることで、開発環境と本番環境の違いをできるだけ減らし、失敗なく高速にデプロイできることを提言しました。

システムの安定稼働やコスト削減といった新技術のメリットを、いち早くお客様に届けられるよう取り組んでいます。

技術統括部 加藤 耕太さん



プロジェクト品質の向上とセキュリティ確保に向けて～PMハンドブックの改訂～

PMハンドブックとは、PMがプロジェクトを推進するうえで、実施すべき事項、知っておきたい事項、気をつけなければならない事項をコンパクトにまとめた小冊子です。

PMハンドブックの初版は、2007年の「日本IBMグループ改善活動発表会」で銀賞を受賞し、内外から高く評価を得たものです。

初版の優れた部分を踏襲しつつ、2015年12月末に内容を改訂し、プロジェクトに携わる社員に配布しています。

今回の改訂では、システム開発・構築における品質向上を目的に構築・運用されているKQMSの全体像を追加し、KDPSや品質レビュープロセスの位置づけを明確にしています。また、近年、世の中で発生している情報漏えい事件・事故に対するコベルコシステム独自のセキュリティ対応策であるPSPを追加しました。

今後ともプロジェクト品質の向上と情報セキュリティの確保を行い、お客様の満足・価値向上に努めていきます。



お客様事例のご紹介

加藤産業株式会社様



加藤産業株式会社様(代表取締役社長 加藤 和弥様)は、1945年に飲料水卸売業として創業以来、営業と物流が連携をとりながら、卸売業としての総合力を発揮し、提案型営業を通じて取引先との関係を強化してこられました。商品や売場の価値を提供することで、豊かな食生活を実現すべく、流通全体の最適化を目指しておられます。

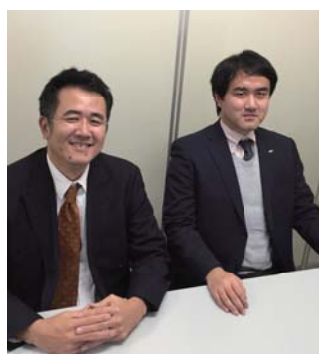


加藤産業様自社商品

加藤産業様は、今の時代に求められる「強く優しい会社」の実現を目指し、具体的な施策を盛り込んだ中長期的な戦略を進めておられます。それらのビジョンを達成するには、取引先のニーズにあわせた販売方法や営業担当者の業務効率化のサポートが一つの課題でした。そのため、フロントラインの営業提案力を強化するナレッジマネジメントの高度化が求められていました。



加藤産業様本社



情報システム部 専任課長 山田様(左)
主任 森様(右)

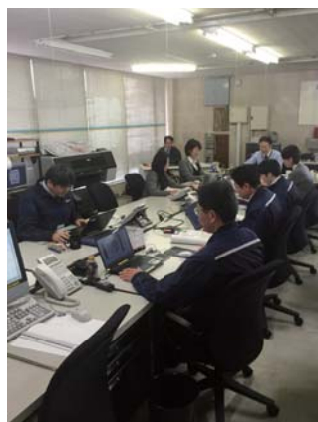
コベルコシステムは、お客様の課題に対して、営業現場の業務効率化とともに利益を意識した営業活動を推進し、取引先ニーズに素早く高品質に対応するため、営業ノウハウの共有を支える新たな仕組みの構築を、日本IBMとともにご提案しました。第1ステップとして、情報検索機能を強化し、データ作成の効率化・スピードアップを図り、営業担当者同士または支店間のノウハウや情報を共有して、営業担当者のスキルや仕事内容の底上げを狙った営業支援システム(K-eMotion)の開発を支援しました。2013年8月にサービスインした当システムは、現在では、営業担当者の業務推進に欠かせない存在となっています。

コベルコシステムの提案を採用いただいたのは、IBMグループである信頼感に加え、長年培ってきたオープン系のスキルや実績への評価が高かったからです。関西に拠点があり、タイムリーな対応がとれる点も、ご判断材料になったようです。

導入後は、「これまでのノウハウを活かし、引き続き営業支援システムの第2ステップをサポートしてください」というお言葉をいただいています。

今後の展開としては、検索機能の強化、社内SNS機能などの新規機能の拡充、外部企業との情報連携、タブレット端末への対応などを予定しています。

今後もコベルコシステムは、加藤産業様が全国卸売業としての存在感を持ち続けるために、また、次代の成長を見据えたいっそうの機能強化を図るために、価値の高いソリューション・サービスを積極的にご提案していきます。



加藤産業様の営業現場

株式会社GSユアサ様



株式会社GSユアサ様(代表取締役社長 村尾 修様)は、2004年4月に日本電池(設立:1917年)とYUASA(設立:1918年)とが経営統合して設立された株式会社ジーエス・ユアサ コーポレーション(持株会社)様の事業会社です。自動車用・産業用各種電池、電源システム、照明機器、その他電気機器を製造・販売しておられます。アジアを中心に海外17か国40拠点に及ぶ事業展開を進めており、エネルギーを“使う”だけでなく“蓄える”技術の多様化が進む中で、リチウムイオン電池や太陽光などの新エネルギー分野で活躍する製品も市場から期待されています。



GSユアサ様本社

コベルコシステムは、2004年のSAP R/3導入プロジェクトに始まり、2007年のR/3業務エリア拡大やマイグレーションを支援しました。2013年にはサーバー仮想化やR/3の中国展開も担当し、システムインフラから基幹システムの構築、アプリケーション開発・保守サービスまで、広範囲なITソリューション・サービスをサポートしています。

エネルギー・環境社会での技術革新が進む中、電池技術を通じて社会のニーズに応え企業価値の最大化を追求するGSユアサ様。コベルコシステムは今後も、現場に入り込み、現場を知り、問題解決のための方策や、それを実現するためのITソリューションをご提案し、ITを通してGSユアサ様の発展とチャレンジに貢献していきます。



SAP R/3導入プロジェクトメンバー



自動車用バッテリー

電気自動車用急速充電システム



お客様の声

事業領域の拡大と継続的成長を図り“新生GSユアサ”へ飛躍するためには、新規事業基盤強化や既存事業の収益力向上に加えて、グローバル市場でのポジションアップは不可欠です。海外関係会社のマネジメント強化のために、中国、ASEANへのERP展開は急務でした。

コベルコシステムさんには、現地のニーズをとらえ、迅速な業務分析と、高品質なサービス

で、中国R/3展開プロジェクトをリードしていただき、とても感謝しております。これからも、上流から運用までワンストップで、弊社と一体となって改革推進をサポートしていただきたいと考えています。

株式会社GSユアサ 情報システム部 部長
青木 裕 様



公正なパートナーシップの維持

一体となってセキュリティを確保する

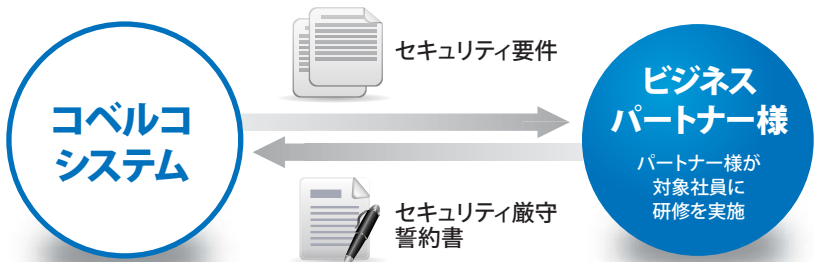
コベルコシステムは、ビジネスパートナー様とともにプロジェクトを遂行しています。その際、ビジネスパートナー様には、コベルコシステム社員と同等の基準でセキュリティを確保し、お客様に安心をお届けできるようご協力いただいています。

コベルコシステムでは、社員に対し、セキュリティ事項の遵守、徹底を図るために、毎年内容を見直して研修を実施しています。また、ビジネスパートナー様に対しては、各社の責任者に依頼し、対象社員に向けて研修を実施していただいています。

これにより、コベルコシステムとビジネスパートナー様が一体となって、お客様のセキュリティ確保につなげています。

2015年度のセキュリティ研修においても、理解度5*を100%達成しています。

*各ビジネスパートナー様から提出いただいた誓約書の履修理解度。5段階で5は「よく理解できた」



コベルコシステムとビジネスパートナー様でセキュリティを確保

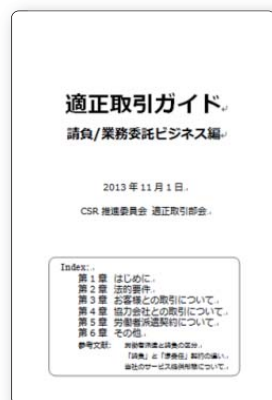
適正取引の推進

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様へのそれぞれの業務委託方式にあわせた発注・進行管理を行っています。それらを適正に行うために、CSR推進委員会の下部組織として「適正取引部会」を設け、具体的なガイドをeラーニング、「適正取引ガイド」などにより社内に徹底する一方、ビジネスパートナー様に対しても定期的なレターの送付、アンケート調査、個別訪問の実施などを通じてその理解と実践をお願いしています。

主な取り組みは、以下の3点です。

- ① ビジネスパートナー様における適正取引状況の調査
- ② ビジネスパートナー様の再委託先活用状況確認
- ③ 請負の適正化のための自主点検実施および実態調査

これらの活動により、ビジネスパートナー様との健全な関係を維持し、お客様をサポートしています。



ともにコンプライアンスを遵守し業務遂行力を高める

コベルコシステムでは、ビジネスパートナー様とともに成長していくため、ビジネスパートナー様の「コンプライアンス遵守状況」と「業務遂行力(プロジェクト遂行力)」という2つの観点から総合的な確認を行っています。

コンプライアンス遵守状況に関する確認

会社としてのコンプライアンスへの取り組みを以下の項目で確認しています。

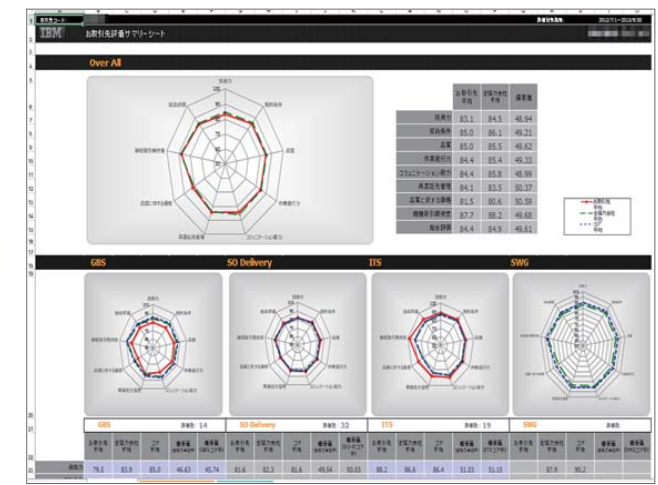
- ① コンプライアンスに関する専任者の設置など
- ② 取引の適正化に向けた取り組み姿勢
- ③ セキュリティ管理
- ④ 公的承認の取得
- ⑤ 組織的・人的・物理的・技術的安全管理

業務遂行力(プロジェクト遂行力)に関する確認

実際のプロジェクトでビジネスパートナー様と協業したコベルコシステムのプロジェクトマネージャーが以下の項目で判断しています。

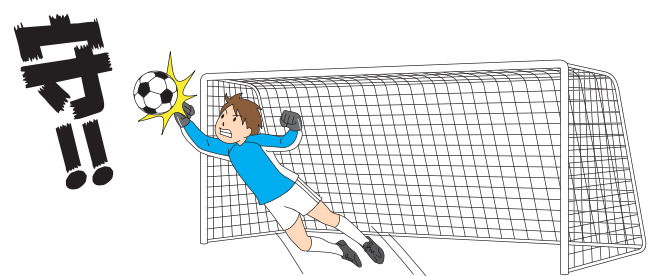
- ① 品質
- ② 生産性と価格
- ③ 納期
- ④ プロジェクト管理能力
- ⑤ 技術力
- ⑥ 総合的対応力・体質

各ビジネスパートナー様のレベルアップ活動を支援するため、結果をフィードバックしています。



ビジネスパートナー様への感謝

年1回「コベルコシステムパートナー会」を開催し、プロジェクト遂行部門からの推薦を受け、貢献度の高かったビジネスパートナー様へ感謝状を贈呈しています。



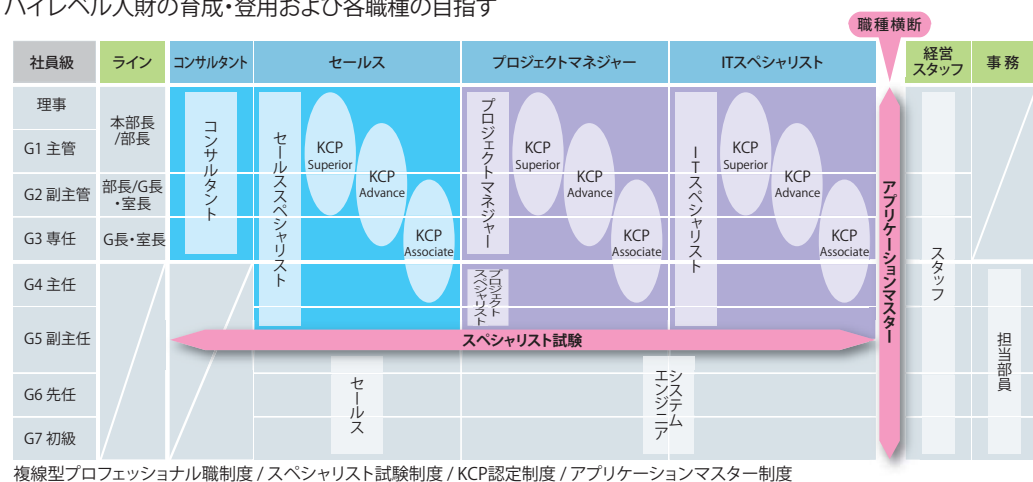
人財育成の仕組み

『“コベルコシステムの最大の資産は人であり、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮こそが会社発展の原動力である”という認識のもと、一人ひとりが互いを尊重し合いながらイキイキ働き、プロフェッショナルとして人間として成長できる会社の実現』を人事基本理念に据え、「期待する人材像、人材要件」を下記の通り定義しています。

- ① ITのプロフェッショナルとして、常に自らの専門性を磨き、高めるとともに、時代や環境の変化に柔軟に自分で考えて動くことができる人材
- ② 人と協働し、他も活かし、組織・チームの目標達成のために、組織・チームの能力の最大化と最大限発揮に貢献できる人材
- ③ 社会人・企業人として、社会や会社のルールを遵守し、お客様に対しても常に責任をもって誠実に対応できる人材

複線型プロフェッショナル職制度を基軸に ～コベルコシステム認定プロフェッションを目指して～

これらを具現化する仕組みとして、社員一人ひとりの能力の最大限の発揮を追求する複線型プロフェッショナル職制度を採用しています。そしてハイレベル人材の育成・登用および各職種を目指すべき人材像として、KCP認定制度 (KOBELCO SYSTEMS Certified Profession) を設けています。

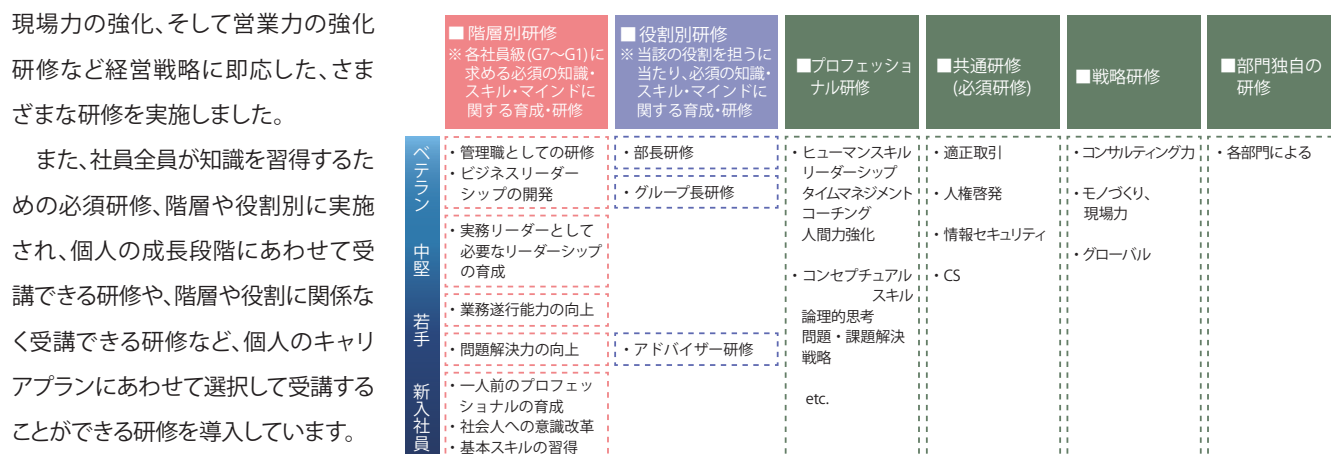


教育・研修体系

コベルコシステムでは、社員の成長にさまざまな角度からアプローチする多面的な教育・研修制度を設けています。「すべての質を高めよう」というスローガンのもと、IT技術の研修だけでなく、ヒューマンスキルなどの普遍的要素の研修に加え、2015年はお客様の経営課題解決に寄与するコンサルティング力、モノづくりや現場力の強化、そして営業力の強化

研修は集合教育のみならず、eラーニングや通信教育制度も整っており、個人のスケジュールにあわせて効率よく利用できる環境を提供しています。

2016年はお客様により高い付加価値 (High-Value) を提供できる人材育成を強化します。



また、社員全員が知識を習得するための必須研修、階層や役割別に実施され、個人の成長段階にあわせて受講できる研修や、階層や役割に関係なく受講できる研修など、個人のキャリアプランにあわせて選択して受講することができる研修を導入しています。

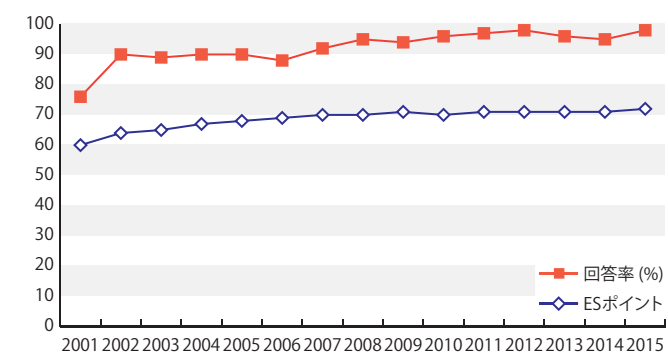
社員満足度調査

「社員満足 (ES) の向上がお客様満足 (CS) の向上につながる」という基本認識のもと、2001年から毎年、社員満足度調査を実施しています。結果を社内メンバーが分析し、認識した課題と改善策は社長コミットメントとしてイントラネットや社内報で全社員にアナウンスしたうえで、経営計画や人事労務施策に反映しています。

「総合満足度との相関は高いがポイントが低い設問」に加え、近年は、「一律から個別へ」の方針を掲げ、「業務環境の違い」にも着目して対策をとっています。

全社結果では70ポイント以上を9年連続堅持していますが、業務環境による社員満足度のバラつきは是正など、社員一人

ひとりを取り巻く環境に応じて、「満足の質」を高める課題の発見や改善に向けたアクションに取り組んでいます。



グローバル人材育成

コベルコシステムが求めるグローバル人材とは、「社会人基礎力」や「ITスキル、プロジェクトマネジメントスキル、セールススキル」をベースに、「異文化を理解する力」「世界で幅広く通用するコミュニケーション力」というグローバル特有要件を兼ね備えた人材です。

この特有要件を満たすために、特に力を入れているのが、海外で開催されているPMI日本支部主催のグローバル・リーダー研修です。全セッションを英語で行う2015年グローバル・リーダー研修は、ベトナムで現地技術者と疑似プロジェクトを推進するという内容で実施され、当社から4人が参加しました。グローバル・プロジェクトに立ち向かう姿勢や、直面する問題への有用な対応方法を体得できると受講者からも好評です。

当社では、2012年から継続してグローバル・リーダー研修に参加しており、これまでに計10人が参加しています。今後も、本研修に継続的に参加するなど、グローバルで活躍できる人材を輩出する環境づくりを行ってまいります。

異文化理解

グローバル・コミュニケーション力

ITスキル、プロジェクトマネジメントスキル、セールススキル

社会人基礎力

グローバル・リーダー研修 参加者の声

英語の壁もありましたが、それよりも文化の壁の方が大きく感じました。言い古されたことですが、やはり日本人はおとなしく、一方で他の国の人は積極的に自分の言いたいことを言い尽くすまで話します。結果、こちらの聞きたいことが相手の言葉に埋め尽くされて、結局何の話だったか曖昧になってしまう場面が多くありました。

とはいえ、考えてみれば、これは日本でのビジネス

でもよくあることであり、結局のところ、質問のポイントを明確にし、回答を得た後、再度こちらから確認を行う、という基本動作を日本より強く意識することで乗り切れました。

座学だけでは得られない、有意義な経験ができました。他の社員にも、臆せずトライしてほしいと思います。



システム事業部 ICT本部 藁谷 憲祐さん

社員と組織の絆を深めるために

3T (楽しい、短時間、達成感) 推進活動

2015年の3T推進活動

3T活動とは、社員が仕事を効率的に進めながら、仕事を通じて「楽しい」や「達成感」を得られる職場づくりの活動です。2014年に引き続き、2015年も、お客様先に常駐し、お客様の環境で仕事をしている社員のケアと、どのようなときに「楽しい」や「達成感」を得られるかについて、社員の声を紹介することを中心に取り組みました。

3Tメールマガジンの発行

お客様先で頑張っている人や、社員が仕事を通して得られた楽しい・達成感を紹介するコラムを全社員にメールマガジンで毎月配信し、3T活動の意識向上を図っています。

2015年にメールマガジンに掲載された方々



社員が仕事で得られた楽しい、達成感 (一部抜粋)

- とても苦労して開発したシステムが無事本番稼動した頃、お客様の部長と二人で飲みに行く機会がありました。その方のポリシーで部下には分けへだてなく男性も女性も呼び捨てで名前を呼ぶのだと常々おっしゃっていました。部長曰く「明日から君のことを〇〇(姓)と呼ぶけど良いかね?」と言われたことを覚えています。理由を伺うと、「さすがに協力会社のメンバーを呼び捨てにはできないと、これまで思っていたんだが、君は私の部下だからね」でした。少し照れくさそうにしている部長さんを見ると、それまでの苦労やその方の思いがとても伝わり、涙が出そうになったのと、何とも言えない達成感を感じたことを今でも鮮明に憶えています。この部長さんから、お客様から認められたんだなと実感したからです。
- 私は2度の産休と育休をいただいて、復職後は短時間勤務制度を利用して働いていますが、タスクの大きなものから小さなものまで、仕事のこともプライベートなことも全部書き出します。そして、毎朝今日やるべきタスクを確認し、その日やったタスクを「やったことリスト」に移していくという管理をしています。1日の勤務時間が短いので、成果物ができるのに何日もかかることも多く、「今日一日何をしていたかわからない」なんてこともよくあります。しかし、この「やったことリスト」の小さなタスクの積み重ねが「大丈夫、少しずつだけど確実に進められている」という日々の小さな達成感になり、仕事が仕上がったときの大きな達成感につながっています。

KWC (KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community)

2003年に女性社員の活躍を支援する全社横断の自主活動として「KOBELCO SYSTEMS Women's Committee (略称: KWC)」の活動がスタートしました。その後、2010年に「KOBELCO SYSTEMS Work-life-balance Community」と改称し、男性社員も含めた「社員が自らイキイキと働き続ける会社」をビジョンに据え、ワークライフバランスに着目した新たな活動を展開しています。

昨年度(活動期間:2014年5月~2015年3月)は、社内に点在していたワークライフバランスの実現をサポートする会社制度や施策に関する情報を集約したイントラネットの「生活便利情報ポータルサイト」をリニューアルしました。引越、婚姻、出産・育児、けが・病気など、ライフイベントが発生したときに必要となる社内手続、利用できる優待サービスなど、さまざまな情報を掲載しており、利便性が高いポータルサイトです。

このようなKWC活動の取り組みの効果もあり、2015年2月、次世代育成支援対策推進法に基づく「子育てサポート企業」として、2009年、2012年に続いて三度目の認定(くみん認定)を受けました。これからも仕事と子育てなどの両立支援制度・施策を充実させるとともに、それらを有効活用し、ワークライフバランスを実現できる職場風土の醸成を進めていきます。



全社イベント「ハッピーデー」～家族とともに～

コベルコシステムでは、2008年から毎年秋に家族参加型の全社イベントを開催しています。2015年は、神戸と東京をあわせて社員とその家族約1,000人が参加し、秋の一日を楽しみました。

神戸地区では、これまでファミリー運動会やバーベキュー、サーカス見学などを企画してきましたが、2015年は少し目先を変えて、神戸ポートピアホテルで豪華なランチビュッフェを食べ、サンパショーやジャグリング、ビンゴ大会などを行い、ステージと会場が一体になって盛り上がりました。

東京地区では、東京ディズニーリゾートホテルでのランチビュッフェ、ビンゴ大会などで親睦を深めたのち、みんなで東京ディズニーリゾートに繰り出して大いに楽しみました。



全社イベントは、「社員同士の一体感の醸成」「社員を支えてくれている家族への感謝」をテーマに開催されています。神戸・東京ともに「社員が頑張れるのは、ご家族の方の支えがあるからです。ありがとうございます!」という川瀬社長の挨拶で始まりました。

お客様先に常駐している社員にとっては、社員同士の親睦を図れる貴重な機会です。また、ご家族の方からの期待も年を重ねるごとに高まっています。

職場とは違う顔の上司、同僚、後輩たちとともに、楽しい一日を過ごし、翌日からの仕事にもエンジンがかかりそうです。

環境保護活動

「森の世話人」活動

コベルコシステムが本拠を置く神戸は、シンボルである六甲山の自然に恵まれ、地域社会全体で六甲山の自然を守り育て、親しみ、そして愉しんでいます。

コベルコシステムでは、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、兵庫県、関係4市が推進する防災事業の六甲山系グリーンベルト整備事業に「森の世話人」として参加し、六甲山の前山の金鳥山(神戸市東灘区)南側に広がる森林を「Kocoroちゃんの森」と名付けて整備しています。

主な活動は、他の植物の生育を妨げるネザサの刈り取り、腐朽木や外来樹種の伐採、常緑樹の間伐、落葉広葉樹の植樹などです。活動に際しては、NPO法人「六甲山の自然を学ぼう会」のサポートを得て森づくりを行っています。

2010年から活動を開始し、40~50人規模の活動を年3回、また、年3回の活動の中間に10人前後の規模での維持活動・準備活動を年間約10回程度実施しています。

2014年に引き続き、2015年も天候に恵まれ、あわせて15回の活動をすべて予定通りに実施することができました。

活動開始当初は、ネザサをきれいに刈り取っても、次の活動時には元の状態に戻っていることもしばしばでしたが、これまでの継続的な活動の結果、ネザサの再生速度も抑えられてきています。そこで2015年は、ネザサ刈りや伐採で空いた場所に、活動開始6年目にして初めて落葉広葉樹(イロハモミジ)の植樹も行いました。

2016年も引き続き、ネザサ刈りや伐採・間伐と並行して防災に強い新たな森づくりを実施していきます。



Kocoroちゃん
コベルコシステムの自然保護活動のイメージキャラクター Kocoroちゃん
※第12回アニメーション神戸 協賛事業として公募



※コベルコシステムの「森の世話人」活動の活動報告は、国土交通省の以下のページに掲載されています。
http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr_media/plant/group/company/kobelco.php

コベルコシステムの「森の世話人」活動に対し六甲砂防事務所から感謝状

国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所、兵庫県、神戸市、芦屋市、西宮市、宝塚市が主催して「六甲山サミット」が開催されました。その席上で、六甲砂防事務所からコベルコシステムの「森の世話人」活動に対し、功労者として感謝状が贈呈されました。

感謝状は、登録46団体中7団体に贈呈されましたが、企業として選ばれたのはコベルコシステムのみでした。



社会貢献・地域貢献活動

第5回神戸マラソン 団体ボランティア

コベルコシステムは、第1回神戸マラソンから社員有志が団体ボランティアとして参加してきました。2015年11月15日(日)に開催された第5回神戸マラソンにも、川瀬社長以下38人の社員がボランティアとして参加しました。

今大会も、ボランティアスタッフは、ポートアイランド西側のしおさい公園北側部分や39km地点付近において、走路整理や

ランナーの案内・サポートなどを担当しました。

毎回ペースセッターを務めている社員が今回もペースセッターとして走り、また、今までボランティアとして頑張ってきた社員をはじめ、多くの社員がランナーとして走った今大会。担当作業をこなし、ゴールを目指して力走するランナーを応援しつつ、スタッフも楽しみながら活動を終えることができました。



留学生インターンシップ受け入れ

コベルコシステムでは、地域貢献活動の一環として、2008年から兵庫県内の大学に在籍し、日本での就職を希望する外国人留学生のインターンシップを受け入れています。

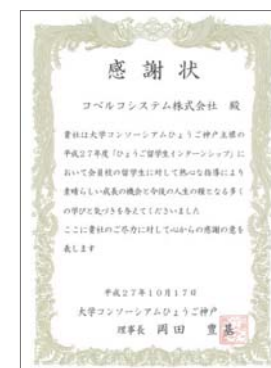
日本企業で働きたい留学生を教育の一環として継続的に受け入れることによって、地域でグローバルの輪を広げることに貢献

しています。同時に、異文化を学び、当社のグローバル化への適応力を養い続けています。

また、2015年の「ひょうご留学生インターンシップ」に協力したことにより、主催者の大学コンソーシアムひょうご神戸から感謝状をいただきました。

主な受け入れ元

- 2008年 10人 経済産業省「アジア人財資金構想」
- 2009年 8人 経済産業省「アジア人財資金構想」
- 2010年 5人 ひょうご大学連携協議会
- 2011年 8人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2012年 10人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2013年 8人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2014年 10人 大学コンソーシアムひょうご神戸
- 2015年 6人 大学コンソーシアムひょうご神戸



東京地区におけるボランティア活動

東京本社では、日本IBMが実施する地域貢献活動にグループ企業として参加しています。

日本IBMでは、さまざまな社会貢献活動を実施していますが、その中の、科学技術館で開催されている「トライサイエンス実験教室」という子ども向け科学実験教室のボランティアに有志の社員が参加しています。



社会貢献・地域貢献活動

アビリンピック支援

アビリンピック(全国障害者技能競技大会)は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が主催し、障がいを持つ人々が日頃培った技術を競うことで、職業能力の向上を図り、企業をはじめ社会の人々に障がいのある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的として開催されています。

コベルコシステムは2003年以来、技能競技種目である機械CADと建築CADの環境設定や当日のヘルプデスク業務を担当しています。



その他の社会貢献・地域貢献活動

● スポーツ振興協賛

NPO法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構(SICX)に協賛しています。

● 芸術への協賛

公益社団法人大阪フィルハーモニー交響楽団に協賛しています。

● 大学の特別講義への講師派遣

流通科学大学経済学部の情報コミュニケーション特別講義に講師を派遣し、CSRについての講義とコベルコシステムのCSRへの取り組みを紹介しました。

● 地域イベントへの協賛

寄付や協賛を通じ、地域の伝統や文化の維持に貢献しています。

- ▶ 神戸まつり
- ▶ 神戸ITフェスティバル
- ▶ 神戸ルミナリエ
- ▶ アニメーション神戸

取得済の認証・認定・許可



■ISO9001適用部署:
営業本部・ERP事業部・ソリューション事業部・システム事業部SO本部製造システム部・システム事業部ICT本部
■登録活動範囲:
製造業、流通業及びその他の産業向け顧客要求事項に基づくソフトウェアの設計・開発・製造及び付帯サービス(教育、移行支援及び瑕疵対応)



■登録範囲:
ハウジングサービス、インフラ運用サービス及びソリューションサービスの提供



兵庫県知事許可 一般建設業(電気通信工事業)
[許可番号/(般-27)第114641号]

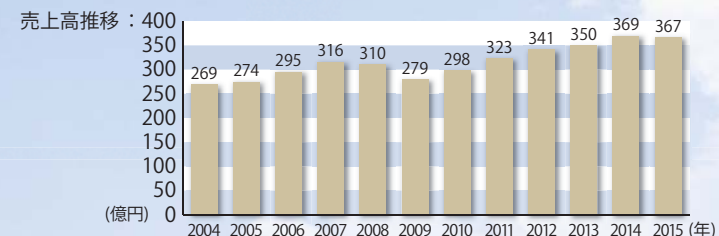
会社プロフィール

会社名称: コベルコシステム株式会社
創立: 1983年10月1日
(神鋼コンピュータシステム株式会社として発足)
設立: 1987年7月1日 (コベルコシステム株式会社に商号変更)
代表者: 代表取締役社長 川瀬 俊治
株主: 日本アイ・ビー・エム株式会社 51%
株式会社神戸製鋼所 49%

事業所:

資本金: 4億円
社員数: 1,035人 (2016年1月1日現在)
関連会社: コベルコソフトサービス株式会社
本社: 〒657-0845
神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 (シマブンビル)

URL: <http://www.kobelcosys.co.jp/>
売上高: 367億円 (2015年度)



沿革

2015年: 「コベルコシステム クラウドインテグレーションサービス」開始 事業部制導入
2014年: SAP導入テンプレート「HI-KORT」のクラウドサービス開始
本社「近畿ニューオフィス コミュニティ賞」受賞
ISMS(情報セキュリティマネジメントシステム)永年登録表彰
2013年: 本社移転
「プライバシーマーク制度貢献事業者」として表彰
2012年: 営業部を統合し、営業本部を設置
2011年: 中国・北京で開催された「SAPPHIRE NOW in Beijing」に出展
2010年: クラウドサービスセンター設立
「いい匂いをするITソリューション」ダイヤモンド社から発刊
2009年: 次世代育成支援対策推進法認定マーク(くるみん)取得
「秘伝のタレ®」「秘伝のワザ®」を商標登録

2007年: 全国企業品質賞にて大賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)
2006年: 東京事業所を東京本社と改称
全国企業品質賞にて最優秀賞受賞(栃木県経営品質協議会主催)
2005年: AMS*センター開設
2004年: IPセントレックス・IPコミュニケーション事業に進出
2003年: ISMS認証取得
2002年: アウトソーシング事業を強化 日本IBMの資本参加
2000年: プライバシーマーク(個人情報保護)の認定取得
1999年: ASP事業の本格的な展開を開始
ISO9001認証取得

* AMS: Application Management Service
SAP社のERPパッケージをベースとした基幹システムの、本番稼働後の安定稼働や運用技術支援、業務の定着化を支援するサービス

編集後記

本レポートを最後までお読みいただき、まことにありがとうございました。
本レポートはそれぞれの分野の担当者が、できる限りわかりやすく伝えることを心がけて執筆を担当しています。
加えて、記載の内容をより理解いただくために、図や写真を多用し、関わった社員の声を数多く記載させていただきました。
コベルコシステムのCSR活動への理解が深まり、親近感を覚えていただくことができましたら幸いです。
本レポートのモチーフには、Kocoroちゃんの森において、外来樹種を伐採して空いた場所に植樹を実施しているイロハモミジを使用しています。
カエデ(モミジ)の花ことばには、『調和』『美しい変化』『大切な思い出』『約束』『遠慮』などがあります。
コベルコシステムが、社会と調和し、ステークホルダーの皆様との約束を守り、美しく変化していく、との想いを込めました。
今後さらにCSR活動を強化していきながら、ステークホルダーの皆様と“ともに”の姿勢を貫いていきます。
なお、本レポートの内容に対するお問い合わせ、ご意見は、当社Webサイトの「その他のお問い合わせ」にて承っています。

コベルコシステム株式会社 経営企画部 CS・CSR推進グループ
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町4丁目2番7号 シマブンビル10F
TEL: 078-261-6001 FAX: 078-261-7520

「その他のお問い合わせ」にて、ご意見・ご感想をお待ちしています。
<https://www.kobelcosys.co.jp/inquiry/other/>
※ステークホルダーの皆様へ、コベルコシステムをよりご理解いただけるよう、2016年1月にホームページを刷新いたしました。